

# 緑の風




JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2023年3月11日 No.127

## 東日本大震災から12年！ 私たちはいま何をなすべきか

### ■トルコ・シリアでの大地震発生

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災から12年が経過しました。

今年に入り2月6日、東日本大震災を彷彿とさせるトルコ・シリアで大地震が発生し、甚大な被害、多数の死傷者が発生し、今なお世界的に捜索・救助活動が行われています。

南海トラフ地震や首都直下地震など発生する確率について、政府は「30年以内に70%」と発表しています。今後、地震や津波がどの地域でも「明日起こりうる」と日頃から意識して、防災・減災の観点で備えていくことが重要です。そして近年私たちの想像を上回る自然の猛威、激甚化する災害に対しても、慣らされることなく、「いま何をなすべきか」考えていかなければなりません。

### ■東日本大震災の教訓を活かすには

東日本大震災では、日頃からの安全を第一に、仲間やお客さまの命を最優先する職場議論が、的確に判断できた要因として明確となりました。そして「仲間の為に何ができるのか」というヒューマニズムの精神が、ボランティア活動や復興支援、そして被災した組合員の生活復興支援・当面の生活保障になるように、お見舞い金の支給や無利子貸し付けを行うことも取り組んできました。

しかし今、運輸現場では事象に対する長期にわたる懲罰的日勤教育が行われています。このことがまかり通れば、罰則への恐怖から、安全第一に正しい判断、報告が出来なくなることが懸念されます。「今さえ、自分さえ良ければいい」ではなく、ヒューマニズムの精神で、仲間と共に悪しき風土に立ち向かうことが問われています。

### ■原発再稼働に対して

福島第一原発事故以降、一時は国内の原子力発電所は稼働ゼロになりました。しかし近年では「温室効果ガス削減」や「エネルギーの安定的供給」などを口実に再稼働だけでなく、新規建設まで行おうとしています。私たちは原発事故によって汚染され、故郷を追われ、未だ風評被害などで苦しんでいる現実を、現地に立ち学びました。

今、エネルギー高騰で原発再稼働やむなしの流れの中で、今一度立ち止まり、制御できなかった原発事故を振り返り、「脱原発」、「再生可能エネルギー」への大転換を訴えていこう。

**「現場の声」をもとにして災害への備えを万全に！**

**自ら判断し、行動できる、安全な職場風土を全組合員で創ろう！**